

瑛九（本名：杉田秀夫）は、明治44（1911）年に、宮崎市内で眼科医をしていた杉田直の6番目の子供として生まれました。兄は父と同じ眼科医になりましたが、瑛九は親の反対をものともせず、画家を目指して突き進んでいきました。瑛九は学校で美術を習うことになじみませんでした。しかし、自ら専門書などで古典や近現代の美術を研究したり、実際に様々な作品を見たりすることによって、芸術を見る目を育てていきました。また、友人への書簡や、雑誌・新聞等に寄稿した文章では、自分の作品も含め、批判的に見ることを訴えていました。

瑛九の作品の中には、「目（眼）」が題名になっていたり、モチーフとして描かれたりしているものがあります。瑛九にとって、眼は最も身近で、気になるものだったのでしょうか。ここでは、瑛九が「目（眼）」を描いた油彩や版画とともに、同時期に描いた様々な作品や資料を展示します。芸術に対する瑛九のまなざしを感じてください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911~1960	母	1953（昭和28）	29.1×23.8	エッチング
2	玉井 瑞夫	1923~2014	「メガネと瑛九と」	1952（昭和27）	32.2×25.0	写真
3	瑛九	1911~1960	街角	1953（昭和28）	17.9×23.8	エッチング
4	瑛九	1911~1960	庭園	1953（昭和28）	23.4×18.0	エッチング
5	瑛九	1911~1960	林の目	1955（昭和30）	24.6×18.0	エッチング
6	瑛九	1911~1960	顔	1957（昭和32）	38.9×26.6	リトグラフ
7	瑛九	1911~1960	森の太陽	1956（昭和31）	38.6×26.0	リトグラフ
8	瑛九	1911~1960	レンズ	1956（昭和31）	35.0×22.0	リトグラフ
9	瑛九	1911~1960	だだっこ	1954（昭和29）	90.7×64.8	油彩
10	瑛九	1911~1960	時計の顔	1954（昭和29）	33.0×23.9	油彩
11	瑛九	1911~1960	鳥	1956（昭和31）	52.9×45.4	油彩
12	瑛九	1911~1960	眼が廻る	1955（昭和30）	53.5×65.1	油彩
13	瑛九	1911~1960	眼	1953-54（昭和28-29）	100.2×80.5	油彩
14	瑛九	1911~1960	芽	1954（昭和29）	145.2×97.9	油彩
15	瑛九	1911~1960	愛の歌	1957（昭和32）	79.8×65.4	エアブラシ
16	瑛九	1911~1960	空の目	1957（昭和32）	72.7×60.9	油彩
17	瑛九	1911~1960	眼	1954（昭和29）	72.8×53.0	油彩

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
18	瑛九	1911～1960	子供とテーブル	1948（昭和23）	33.2×24.2	油彩
19	瑛九	1911～1960	嵐	1958（昭和33）	90.9×116.7	油彩
20	瑛九	1911～1960	つばき	1959（昭和34）	259.0×181.8	油彩
21	瑛九	1911～1960	眼	1952（昭和27）	21.0×15.2	エッチング
22	瑛九	1911～1960	サーカス	1956（昭和31）	23.5×18.1	エッチング
23	瑛九	1911～1960	白サギ	1956（昭和31）	23.7×18.2	エッチング
24	瑛九	1911～1960	愛の家	1951（昭和26）	20.7×15.1	エッチング
25	瑛九	1911～1960	目	1957（昭和32）	18.0×11.7	エッチング
26	瑛九	1911～1960	ヴァイオリン	1952（昭和27）	18.0×12.0	エッチング
27	瑛九	1911～1960	眼	1936（昭和11）	27.6×23.0	フォト・コラージュ
28	瑛九	1911～1960	多摩園	不明	55.5×41.0	フォト・デッサン
29	瑛九	1911～1960	お化粧	1954（昭和29）	35.5×28.0	フォト・デッサン
30	瑛九	1911～1960	Visitors to a Ballet Performance	1950（昭和25）	45.7×55.8	フォト・デッサン